様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３４５１１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2018
課題番号：２６３７０７７９

研究課題名（和文）火薬原料の国際流通からみた前近代の日本とユーラシア

研究課題名（英文）Pre-modern Japan and Eurasia from the Perspective of the International Circulation of Gunpowder Materials

研究代表者
山内　晋次（YAMAUCHI, Shinji）

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：２０４０３０２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：当初の研究計画では、火薬原料としての硝石と硫黄の両方について、10～17世紀頃の時期を対象として、日本に軸足を置きつつユーラシア規模での流通状況を解明する予定であった。ところが、検出できた硝石関連の史料が予想以上に少ないため、途中で研究計画を見直し、比較的多くの史料が残存している硫黄の流通状況に絞って研究をおこなった。
この結果、従来ほとんど解明されていなかった、10～16世紀頃におけるユーラシア規模での硫黄流通構造の歴史的変遷や、その流通を担った権力者・商人たちの姿などを、東アジア海域を主軸としてある程度解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本課題研究の学術的意義は、これまでその形態・性能・伝播などに関して膨大な業績が蓄積されている火器研究のいっぽうで、ほとんど研究の光が当てられてこなかった火薬原料の流通史の一端をユーラシア規模で解明したことにある。
社会的な意義としてはたとえば、本課題研究で明らかにされた、日本列島産の硫黄が軍需物資としてアジア史・ユーラシア史のなかで重要な役割を演じていたという事実は、現在の日本の歴史教育において大きな課題となっている「日本史」と「世界史」の接続によるグローバルな歴史像の探究というような問題に対しても、有用な素材となりうるであろう。

研究成果の概要（英文）：By the first research plan, I was going to shed light on the circulation system of both saltpeter and sulfur as gunpowder materials, on the Eurasian scale, for the 10-17th centuries, with putting a pivot leg in the Japan Archipelago.However, I could detect unexpectedly only a few historical materials on the circulation of saltpeter.
So, on the way, I reconsidered the research plan and focused only on the circulation system of sulfur which relatively many historical materials remained on.
As a result, with a central focus on the East Asian maritime region, I could elucidate the historical changes of sulfur circulation system on the Eurasian scale and the figures of local lords and merchants who played an important role in the system during the 10-16th centuries.

研究分野：日本古代・中世国際交流史

キーワード：火薬原料　硫黄　日宋貿易　日元貿易　日明貿易　高麗　朝鮮　琉球

１．研究開始当初の背景

（１）鉄砲・大砲などの火器をめぐる歴史研究においてはすでに、その兵器としての形状・性能や伝播の過程、あるいはその広範な使用による権力形態や社会編成の歴史的変化などの諸問題について、世界的に豊かな成果が蓄積されている。ところがこのいっぽうで、その兵器にとって不可欠な火薬の原料である硝石・硫黄・木炭粉の生産・流通・支配などの問題に関しては、世界的にみてもほとんど研究がおこなわれていない。

（２）以上のような火器・火薬研究の現状に鑑み、本課題研究では、後者の火薬原料の国際的な流通構造の解明を企図した。

２．研究の目的

（１）本課題研究では、火薬の原料として不可欠な硝石および硫黄という鉱物が、10～17 世紀頃のユーラシアにおいてどこで産出し、どのように流通していたのかという問題を、日本列島に軸足をおきつつ総体的に解明し、「日本史」と「世界史」との連関構造の一端を明らかにすることを主たる目的とした。

（２）硝石および硫黄の広域流通は、中国で発明されて発展した火薬・火器技術のユーラシア各地への伝播の歴史過程と不可分に結びついていると考えられる。そこで、硝石・硫黄の具体的な流通状況の解明と併行して、火薬・火器技術の伝播の歴史的な動向についても、多くの先行研究を活用しつつ、自分なりの整理を試みることを副次的な目的とした。

３．研究の方法

（１）本課題研究では、ユーラシア各地に残されている 10～17 世紀頃の各種文字資料（歴史書・古文書・文学作品・金石文など）から硝石および硫黄に関連する記録（産地、採鉱・交易状況など）を網羅的に収集していくことを、まず基礎的な作業としたおこなった。そして、このようにして得られた断片的な文字情報をつなぎあわせることにより、それらの鉱物の汎ユーラシア規模での流通構造の大枠を推定復元していった。

（２）以上のような机上での文献研究と併行して、文字資料から得られた情報の信憑性を確認し、さらにそこに欠けている情報をすこしでも補うために、国内外の硫黄産地（火山）やその流通に関わった海陸のルートや拠点（航路・街道・港湾など）に対する現地調査を積極的に実施した。

４．研究成果

（１）当初の研究計画では、火薬原料としての硝石と硫黄の両方について、ユーラシア規模での流通状況を解明する予定であった。ところが、検出できた硝石関連の史料が予想以上に少なかったため、途中で研究計画を見直し、比較的多くの史料が残存している硫黄の流通状況に絞って研究をおこなった。

（２）この結果、従来ほとんど解明されていなかった、10～16 世紀頃におけるユーラシア規模での硫黄流通構造の歴史的変遷や、その流通を担った権力者・商人たちの姿などを、東アジア海域を主軸としてある程度解明することができた。

（３）以上のような研究成果は、国内向けに日本語による論文執筆および口頭発表をおこなっただけでなく、いくつかの国際学会において英語による口頭発表をおこない、海外への発信も積極的におこなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 10 件）

① 山内晋次、東アジア海域論、岩波講座日本歴史、査読無、20、2014、pp.87-114

② 山内晋次、薩摩・琉球と「硫黄の道」、黎明館企画特別展「南からみる中世の世界～海に結ばれた琉球列島と南九州」、査読無、2014、pp.148-157

③ 山内晋次、10～13 世紀の日本と高麗―日麗貿易を中心に―、李秉昌博士記念 韓国陶磁研究報告、査読無、8、2015、pp.46-57

④ 山内晋次、宋代温州に漂着した日本船―「硫黄の道」研究のひとこま―、亀井明徳氏追悼・貿易陶磁等論文集、査読無、2016、pp.274-284

⑤ 山内晋次、「硫黄の道」を求めて―海域アジアの資料をつなぐ―、資料学の方法を探る、査読無、2017、pp.24-32

⑥ 山内晋次、日本産硫黄がつなぐ東部ユーラシア史、知っておきたい歴史の新常識、査読無、2017、pp.70-73

⑦ 山内晋次、東アジア海域世界と日本、日本古代交流史入門、査読無、2017、pp.191-206

⑧ YAMAUCHI Shinji、Japanese Sulfur and East Asia during the 11-16th Centuries、Proceedings of the 1st British-East Asian Conference of Historians, Core and Periphery in British and East Asian History、査読無、2018、pp.293-302

⑨ 山内晋次、火薬原料としての硫黄、ミネルヴァ世界史叢書 5、査読無、近刊

⑩ 山内晋次、海を渡る硫黄―14-16 世紀前半の東アジア海域―、ネットワークと海域―東アジア海域から眺望する世界史、査読無、近刊

〔学会発表〕（計 17 件）
① 山内晋次、薩摩・琉球と「硫黄の道」、平成 26 年度企画特別展「南からみる中世の世界～海に結ばれた琉球列島と南九州～」講演会、2014
② 山内晋次、10～13 世紀の日本と高麗―日麗貿易を中心に―、大阪市立東洋陶磁美術館・李秉昌博士記念公開講座「東アジア海域と高麗青磁Ⅰ」、2015
③ YAMAUCHI Shinji、Sulfur Export of Japan World History in Pre-modern Asia、The 3rd Congress of Asian Association of World Historians、2015
④ 山内晋次、東アジア海域論―比較海域史の試み―、東アジア海洋史の再構成のための始まり：9 世紀から 13 世紀まで、2015
⑤ 山内晋次、硫黄流通からみた日本とアジア、Rethinking Inter-state Relations in East Asia: Identity, Ideology, and World Order from Eighth to Seventeenth Centuries、2015
⑥ 山内晋次、「硫黄の道」を求めて―海域アジアの資料をつなぐ―、2016 年度愛媛大学「資料学」研究会公開講演会、2016
⑦ 山内晋次、「東アジア」「東部ユーラシア」「海域アジア」、2016 年度九州史学会シンポジウム「「日本」も、そして「東アジア」も超えて」、2016
⑧ 山内晋次、日宋貿易史研究をめぐるいくつかの問題―新安沈船発掘 40 周年記念展から考えたこと―、第 35 回中世土器研究会「貿易陶磁研究の現状と土器研究」、2017
⑨ 山内晋次、海を渡る硫黄―14～16 世紀の日本・朝鮮・琉球・明―、多文化社会学研究会「東アジアから眺望する世界史」、2017
⑩ 山内晋次、平安期の日本と広州、華南師範大学日本研究国際交流センター第 1 回国際シンポジウム「中日比較の視点から始まる日本研究」、2017
⑪ 山内晋次、海を渡る硫黄―14～16 世紀の日本・琉球・朝鮮・明―、北大史学会、2017
⑫ 山内晋次、14-16 世紀東アジア海域における硫黄流通、九州史学会、2017
⑬ 山内晋次、11-16 世紀海域アジアにおける硫黄流通、琉球・沖縄歴史研究会、2018
⑭ 山内晋次、アジアをつなぐ「硫黄の道」、第 63 回国際東方学者会議、2018
⑮ YAMAUCHI Shinji、Japanese Sulfur and East Asia during the 11-16th Centuries、The 1st British-East Asian Conference of Historians, Core and Periphery in British and East Asian History、2018
⑯ 山内晋次、硫黄流通からみた 11-16 世紀の日本とアジア、中世史研究会、2018
⑰ 山内晋次、硫黄流通からみた 11-16 世紀の日本とアジア、高麗大学校歴史教育科・海外学者招請講演会、2019

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：
○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等（ なし ）

６．研究組織

(1)研究分担者（ なし ）
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者（ なし ）

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。